



医療法人セント・ルカ

セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

目次

巻頭言	1
一年を振り返って	
心理専門相談室	2
看護部	4
研究室・検査室	6
事務部	8
情報処理室	10
診療統計	
外来・入院数	12
妊娠数	14
外来患者及び妊娠結果の内訳	16
初診後妊娠までの期間（グラフ）	18
腹腔鏡検査後妊娠までの期間（グラフ）	18
AIH（人工授精）による妊娠（グラフ）	19
ART（体外受精）による妊娠（グラフ）	19
ARTによる妊娠	20
ARTによる出産および出生児の状況	20
セント・ルカ産婦人科 1年のあゆみ	21
行事一覧	22
論文一覧	33
著書（共著）一覧	34
院内活動	
セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明	35
スタッフ配置	39
病院概要	40

巻 頭 言

宇津宮 隆史

昨年と比べ、この1年のなんと忙しくなったことか。というより、われわれの行ってきたさまざまな活動がようやく実を結ぶ緒に就いたのであろう。基本的にわれわれは不妊診療には3つの柱があると指摘してきた。その第1は医学・技術的、第2は社会的、第3は精神・心理的な面からの柱である。1番目の医学、技術的側面では、この1年間で30回の学会発表、6編の論文発表、などを行った。また来年の九州不妊学会会長もおおせつかった。さらに今年2月には日本生殖医療標準化機関 JISART の RTAC の審査に合格し、全国の高レベル10施設に認定された。また、7月には ISO9001 にも合格し、すべてこれらは当院の不妊診療の質のレベルの高さを保証するものであろう。

また、社会的な面については、不妊診療の健康保険適用運動がいよいよ第4回目の国会請願の準備に入った。昨年12月には野田聖子議員事務所を通して3回目の国会請願を行うことができた。全国の不妊専門医の先生方からも熱心な協力を得られている。2005年8月の日本受精着床学会の公開講座でも私はこの件についてパネリストとして発表、強力に要求する予定である。われわれの運動と釘宮磐大市長の活躍で不妊治療に対する助成金が全国で配布されることになったことは喜ばしい。当院を通して請求した昨年度の助成金総額は4600万円を超えた。今までゼロだったが今回、この金額が患者さんに渡ったのである。全国では50億円といわれている。しかし1回の体外受精は50万円はかかる。それに比べれば年間10-20万円は少ない。今、保険適用に向けて最後の最大のチャンスであると思う。国会議員も国民も今、不妊治療に対する補助をという声に対して認識が高まっている。今を逃せば次は無い。

また患者さんに対して正確で公平な情報提供も重要である。以前からいわゆる「妊娠率」に対して不信感があり、それがひいては患者さんを惑わす原因の一つになっていることはよく知られていた。そこで JISART では共通のコンピューター・ソフトを用いて、紛らわしい妊娠率を一掃し、信頼性のおける値を JISART が責任を持って公表することに決定した。そのソフトに当院の「セーラベース」が採用された。これが順調に機能するようになれば、恐らく妊娠率は25-35%に落ちつき、患者さんも安心して施設を評価できるようになるであろう。われわれの当初からの考えが正しかったことが証明されるのである。そして「セーラベース」がこのような形で当院を巣立ってゆくならなんと喜ばしいことであろう。

心理的側面については、来年は日本生殖医療心理カウンセリング学会の会長をおおせつかつている。患者さんの心の問題についてもわれわれは従来から取り組んできた。そして今、やっと患者さんの心のサポートの重要性が一般に認識されるようになってきた。特にわれわれ医師や看護師、ラボ・スタッフが情報提供を中心とした相談でも解決のできない心理学的内容に対するサポートは専門の心理士の活躍が期待される。来年の学会ではこの各セクションの役割分担とその重要性を取り上げようと思う。

このように日本の ART 環境がやっと進み始めた。今、全力でこの動きをよい方向に向けなければならない。

一年を振り返って

心理専門相談室

この一年間は、昨年に引き続き不妊治療を受けている患者さん方の悩みや不安、気持ちの変化など、心理的な面に対する関心がますます深まり、不妊治療に携わる医療者だけではなく、社会的にも少しずつその方面における認識が広まってきたことが実感できる年となったように思います。

衆議院議員の野田聖子さんが自分の不妊治療体験を書いた本が出版されました。夫婦の気持ちのずれや内面的な苦悩まで含めて書かれたこの本はマスコミなどにも取り上げられ、不妊に悩む女性の苦悩についての理解を広めるきっかけになりました。

また、不妊に悩む当事者同士で作る全国的規模のピアサポートグループ Fine が本格的に活動を始め、様々なところで積極的に自分たちの思いを発信するようになってきました。

今まで少数派として孤立し、どちらかというと黙って耐えるという感のあった不妊症患者さんが自分たちの思いを社会に向けて主張できるような環境が整ってきたことは、本当に画期的なことだと思います。この風潮を一時的な、ある特定の人だけのものとしてせず、この問題に関わる人達みんなが力を合わせて、社会の理解をより一層深めていく努力をすることが求められていると考えます。

とはいえ、実際に治療をうけておられる患者さん方は、やはりいろいろな悩みを抱えながら、誰にも言えずに黙って頑張っておられる方が多いのが現実です。

最近の特徴として年齢的な問題が挙げられます。2004年度の初診時の患者さんの平均年齢が約32歳と12年前の開院当初に比べておおよそ2歳の上昇が見られています。以前に比べて、平均寿命が延び、女性の生き方も多様になってきていますので子どもが欲しいと考え始める年齢が高くなっているのは自然なことと考えられますが、現実的には加齢は妊娠率に影響を及ぼす重要な因子であることは一般的にはあまり知られていません。不妊治療を始めてからそのことを知り、とても驚いたり、ショックを受けたりする患者さんも少なくないのです。このことが、患者さん方に罪悪感や焦燥感を抱かせる要因となる場合も見られます。また、妊娠困難な難治性の患者さん方は、治療が長期化することによって年齢を重ねていくという皮肉な現実も生じてきます。このような患者さん方が治療を続けていくために精神的サポートは欠かせません。

また、治療がなかなか実を結ばない場合、上に記した年齢的な限界や、その他、体力的、精神的、経済的、今後の生活設計などの理由により、治療終結を考えなければならなくなることがあり、そのような場合の患者さんの苦悩は、計り知れないものであると

思われます。治療終結の決断は大変難しく、人それぞれの生き方、価値観が大きく問われる人生の危機と捉えられます。

院長先生を始め、治療に携わる私たちスタッフは、その危機におけるサポートを重要な課題として捉え、患者さん方が少しでも悔いの残らない治療終結が迎えられるようにと考えて取り組んできました。治療終結を決断された患者さん方ともお話をさせていただきました。苦しみの無い決断はないと思いますが、その苦しい道なりに寄り添い、一緒に歩いて行けますよう、そして患者さんの今後の人生がより豊かなものとなりますよう、今後も取り組んでいきたいと考えています。

初診の患者さん、治療中の患者さん、そして長期治療や高齢の患者さん、それぞれ治療段階は違っても、その時、その時の不安や悩みは同じ重さをもって患者さんに掛かってきます。これからも一人一人の患者さんが自分たち夫婦の治療として、安心して治療に取り組んでいただけるよう務めていく所存ですのでよろしく願いいたします。

心理専門相談室 上野 桂子



一年を振り返って

看護部

記念日を二つ作りました。一つは2月15日 RTAC 記念日、もう一つは7月12日 ISO 記念日です。何故ならばこの二つは職員全員がルーチンワークをこなしながら一つの目標に向かって頑張った証であり、力の限りを尽くして迎えた審査の合格日だったからです。忘れる事は出来ません。

セント・ルカが開院して14年目に入っていますが、今年の上半期に行われた二つの審査は当院が医療サービスを行う上で確実に「レベルアップした」と確信出来るものでした。

まず、2月15日 RTAC 記念日とは、日本では既に600以上の施設が不妊治療を行っていますが、「不妊治療の質の向上」を目的とした JISART（日本生殖補助医療標準化機関）が2年前に発足しました。現在14の施設が参加しているこの JISART が、RTAC（オーストラリア不妊学会生殖医療認定委員会）の審査を導入し、今年の上旬に14施設中10の施設がその審査に合格しました。7月4日付けの大分合同新聞と、日本経済新聞にも内容が掲載されています。

2月15日の RTAC 審査当日は朝から緊張の連続でした。RTAC 審査が画期的だと思われるのは、審査員の中に患者さんの代表がチームの一員として来られ、患者サイドから医療スタッフや施設を評価し、その意見が審査に反映されるということでした。当院でも治療経験者1名を加えた5名の患者さんが集まって下さり、それぞれの意見を述べる意見交流会が審査チームとの間に持たれました。JISART が求めている患者さんの「満足度の向上」とは、今までの医療中心とは異なり、あくまでも患者さんの為の医療である事が、現場のナースとしてとてもいいことだなーと実感しました。

夕方の結果発表で「合格ライン」の評価を頂いた時は院長先生、研究室、看護スタッフ、情報処理室、心理部の誰もがこみあげてくる喜びを感じ、忘れない1日となりました。そして忙しい中、意見交流会に参加して下さった患者さんに感謝いたします。

次の7月12日 ISO 記念日とは、ISO9001（国際標準化機構）の審査に合格した日です。

JISART が RTAC 審査に加え、ISO も導入する事がよりレベルアップに繋がるとの事で JISART の参加施設が ISO の取得に動き始めました。丁度一年前の2004年5月のどしゃぶりの雨の中、スタッフの大半は、10年も前に ISO を取得しているという国東にある株式会社「HOKS」に向かいました。ISO 取得に向かって「まず取得している工場を見学してみよう」との院長の発案です。そこでは、きちんと品質管理された無駄の

ない動きに驚嘆すると同時に「医療の現場、まして人が対象の現場では ISO 取得は無理ではないか」と、ほぼ全員がそう思いました。しかし院長先生の「ISO 取得の思い」は強く、変わりませんでした。

「HOKS」見学の1ヶ月後の6月にはISO9001推進委員会が発足し、まずコンサルタントを探す事から始めました。二転三転した結果、9月にLCAの田中氏と決定。いよいよ本格的な取り組みが動き出し10月にはISO事務局長1名、ISO事務局員2名が決定し、方向が定まってきました。この頃は既に各部署のマニュアルの見直し、所謂、ISOで言うフロー図作成も始まっていました。同時にISOの勉強会も始まり、聞き慣れない「品質管理?」「マネジメントシステム?」「資源運用?」「監視、是正?」等で、頭の中で「もうついていけない!」の悲鳴が聞こえてきました。

2004年、11月16日のISO9001キックオフミーティングを行い、2005年を迎えました。半日勤務の木曜日を利用してISO会議を持ち、品質マニュアル作成に追われる毎日でした。スタッフ全員が、日勤業務や夜勤をしながらのISO関連業務はやはり大変でした。目標のための責任感が心を動かしていくのだなとおもえます。

5月以降はISO事務局も目前の文書審査、本審査が迫ってきたことで大忙しです。本審査までのスタッフ(スタッフ全員が内部監査委員として合格した)による内部監査は全員の意識を高める意味でも、とても有効だったと思われました。

7月12日のISOの本審査日がやって来ました。担当者は責任感というプレッシャーで押しつぶされそうでしたが、審査日の長い一日が終わった時は、安堵の喜びで満ち溢れていました。ISOの本審査に合格したからです。ホットしました。が同時に、ISOの取得が最終目的ではなく今日から第一歩が始まりISOを活用していく事の方が大切なのです。

今、スタッフ全員の首から下げられているIDカードの裏面には、当院での品質方針である「患者さんの夢の実現のため、世界トップレベルの知識と技術と心を提供する。」が明記されています。これが「絵に書いた餅」で終わらないように1日1日を責任を持って丁寧に仕事をやり遂げたいと思います。

「やはり野に置け蓮華草」は私の大好きな言葉です。それぞれが生かせる部署で輝きつづけるという特性を大事にして、スタッフ間の横の繋がりを強化し、セント・ルカの品質方針に向かって羽ばたき始めます。こうのとりのさんが一人でも多くの患者さんに赤ちゃんを連れてきて下さる事を願いながら。

看護部 指山 実千代

一年を振り返って

研究室・検査室

この一年は、研究室のなかの基礎研究分野、データ管理分野、環境整備分野それぞれに力を入れ、ますます充実した一年であったと思います。

1999年に研究室が本館から新館へと移転するとともに研究設備がさらに充実し、今年で早6年目を迎えます。2003年から取り組んできた、OHSS（卵巣過剰刺激症候群）になりやすいPCO（多嚢胞性卵巣）患者さんのために卵巣から未成熟卵子を採取し、体外で成熟培養させるIVM（体外成熟培養）の研究が2004年、ようやく患者さんの妊娠という嬉しい形で実を結びました。醍醐渡辺クリニック・京都大学名誉教授 森崇英先生、広島大学大学院生物圏科学研究科 島田昌之先生のご指導なくしてこの成功はありえませんでした。私たちの基礎研究がこのような形で実を結ぶというのは大変嬉しいことで、患者さんからご褒美をいただいたような気持ちです。

最近新たに始めた研究として、患者さんの血中にある消化管ホルモン「グレリン」というホルモンを測定しています。このホルモンは、卵胞中にも存在するという推測をたて、ゆくゆくはPCOとグレリンの関係性について検討していきたいと考え、現在サンプリングと測定を進めています。この研究は広島大学大学院生物圏科学研究科 杉野利久先生、京都大学医学部付属病院探索医療センター 赤水尚史先生のご指導、ご協力をいただきながら行っています。このような検討はこれまであまりされていなかったため、新たな知見が得られることを期待しています。

IVMの研究をさらに深め、卵子の「遺伝子の刷り込み（ゲノムインプリンティング）」がいつ起こるかを解析するため、マウスを用いて卵巣の中の非常に未熟な卵子を採取し、実験を進めています。この研究は九州大学生態防御医学研究所産婦人科 有馬隆博先生のご指導のもと行っており、この研究によってまた卵子発生に関する新たな知見が得られることと思います。

またデータ管理に関しては、採卵、媒精、胚の観察、培養液交換など、管理すべき作業に携わる者がデータを「誰でも、その場で、後に貯めずに」コンピュータに入力できるように改良されたセーラベースが、ますます使いやすくさらに改良されました。2003年後半に「同時入力」が始まった当初は、慣れないこともあり研究室スタッフ全員が同じように行うのが困難でしたが、すぐに慣れ、誰もがその場で同じように行うことがで

き、とても便利になりました。日常業務を行いながら入力を同時進行にしていくため、業務に差し支えない簡便さが必要であり、また後でデータ解析しやすいことが必要です。このデータベースを用いれば日本産科婦人科学会の年度毎の報告も、キーひとつを押すだけで完成します。これから目標を「完全ペーパーレス」において、情報処理室と密に連絡をとりながらさらなる使いやすさを目指していきたいと思っています。

生殖補助医療の質向上とその維持を達成するため 2003 年に発足した JISART（日本生殖補助医療標準化機関）は、当院を含め全国の 14 施設で構成されました。患者さんに満足していただける医療を提供するためには、施設の設備面・医療サービス面の両側からの質の向上が必要です。設備面の向上について、オーストラリアの生殖医療技術認定委員会（RTAC）の審査を受け、全国の最も質の高い 10 施設であるという認定をいただきました。

また医療サービス面の向上については、昨年から ISO9001 取得に向けて研究室が患者さんに係わるすべてのことについて、いま一度見直していきました。院内で検査する患者さんの血液のホルモン測定から、ART 業務全般、ART の各段階において患者さんに行う説明、さらには私たちスタッフの仕事のしやすさ・技術向上などについて、必要な環境整備がハード面ソフト面ともに膨大にあります。それを文字通りひとつひとつ洗いざらい見直していき、それぞれに記録管理をしていくようになりました。冷蔵庫ひとつにおいても、患者さんに係わっているのだという考えできちんとした温度管理が必要です。そのために機器管理に関しては完全に記録を残すようになりました。

こうして ISO 事務局を中心とした日々の努力の末、今年 7 月に晴れて取得内定となりました。一見 ISO 取得のために頑張ってきたようですが、これは医院全体の質の向上に必ずつながることだと思います。それぞれ形は違っていても一人でも多くの患者さんが満足してセント・ルカを卒業していけるようになれば…と思ってやみません。

患者さんがご相談にいらした場合は、周りを気にせずお話ができ、納得して帰っていただけることが望ましいということから、データをお見せしながらじっくりお話ができるようにコンピュータを設置した「お話部屋」を設けました。さらにスタッフの勉強会、英会話受講もより向上させるために記録を残し、研究室のミーティングも定期的に時間をかけて行うようにしました。

これから一年も、研究室は受精卵ひとつに患者さんの思いを受け止めながら、心の通った技術を提供していきたいと思っています。

研究室 熊迫 陽子

一年を振り返って

事務部

常に新しいことに挑戦し続ける院長先生の下、取り残されぬ様に必死の受付一同ですが、特にこの一年は非常に厳しい年となりました。

ベテランのスタッフが長期のお休みを戴くに当たり、万全の体制を整えるべく、十分な引継ぎ期間を取っていたのですが、想定外のアクシデントにより引継ぎなしのスタートを切る結果となってしまったのです。

その結果、目の前の仕事を漏れのないよう仕上げることに気をとられ、一番大切にしなければならない患者さん方に、随分とご迷惑をおかけしたのではないかと思います。省みても、その頃、来院された患者さんへの対応の拙さに、悔やむ日々の繰り返しとなってしまいました。

加えてそのような日々の中で、オーストラリアの生殖医療施設への審査機構である RTAC の審査に挑みました。当院は予てより、日本国内で不妊治療を取り扱う 14 施設で構成された JISART の会に属しております。会全体で、不妊治療の医療の質を高めるべく RTAC の取得をする事となったのです。それと同時にやはり患者さんの満足度を高めるべく、ISO9001 の取得もする事となり、このふたつの審査に対する取り組みが各部署で始まりました。上記の件でまだまだ受付としての体制が本来の形になく、患者さんに余裕を持って接する事が出来ない時期に、一番厳しい課題に取り組む事となったのです。

ISO9001 取得にあたっては均一化された質を保証するものとして、部署ごとのマニュアルが必要になります。業務の性質上、看護部も研究室もほぼ完成された部署マニュアルを既に持っておりました。しかし、受付においては白紙の状態からのスタートでした。マニュアルを作るには、受付の仕事を明確にし、その内容を整理しなければなりません。加えて、全くのゼロからのスタートでしたから、マニュアルには何をどこまでどのように記載すればいいのかも分かりません。不安ばかりが先行しての始まりでした。

そんな折、当初の ISO9001 事務局が、既に ISO9001 取得を終えている他院の見学に行く事になりました。私も院長先生にお願いし、同行させて頂きました。そのおかげで、実際に見聞きすることにより、漠然としていた不安も明確化していき、やっと取り組み方が分かったような気がしました。この出張を機に、落ち着いて取り組める気持ちが自分の中で持てる様になりました。一からの積み重ねで、難産でした。しかし受付に ISO9001 が取り入れられる事により、仕事内容がより整備されました。また文章にすることで、それらが明確になっていきました。厳しい状況下の大きな課題でしたが 7 月

12日に本審査に合格しましたので、この年報が出る頃には取得出来ていると思われ
ます。

後はISO9001の仕組みを継続させて、患者さん方の医療に対する満足度が少しでも
上がるように努力するのみです。

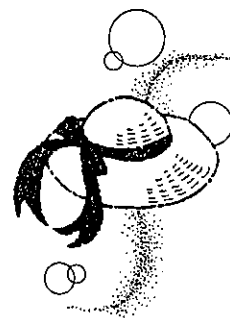
最後にセント・ルカ産婦人科受付で2004年度不妊治療助成金の申請書を取扱いまし
た総件数が出ましたのでお知らせいたします。

大分県助成金申請者・・・・・・・・151名	¥14,622,665
大分市助成金申請者・・・・・・・・153名	¥27,280,256
他県助成金申請者・・・・・・・・2名	¥ 200,000
県と市・両方助成金申請者・・37名	¥ 3,700,000
合計 306名(内37名含む)	¥45,802,921

(*上記の金額は申請により患者さんが助成を受けた金額の総額です。)

不妊治療が保険適用になる日が、一日も早く来ますように署名活動の方もまだまだ続
けて行きたいと思います。

事務部 渡邊 佳代



一年を振り返って

情報処理室

2004年度のセント・ルカは、巨大な2つの山に果敢に挑戦して、見事制覇した記念の年になりました。

11月16日にISO9001取得に向けてキックオフミーティングが行われました。

情報処理室（情処）という部署の存在をフル活用するために、文書管理をペーパー管理するのではなく、ファイルサーバーを使用してデータ管理をすることになりました。

ペーパーを保存している場所までいかなくとも、部署で自由に保管文書を見ることができ、常に最新文書を利用することができる。そして、ペーパーにすれば膨大な文書でもファイルで管理を行えばバックアップファイルでさえ、DVD1枚ですむ。もしも災害が起こった場合でも、当直の看護師が非常持ち出し袋さえ持ち出してくれれば、当院のデータは安全でハードさえ別の物を準備すれば、データはすぐに復帰できるのです。

今回、院内文書を登録するにあたり、今まで情処では見えなかった他部署の仕組みや流れがほんの少し見えるようになりました。患者さんにフィードバックする資料の量、治療別の説明書、同意書、各種パンフレット、膨大な量の配布資料があるのです。

危機管理に関する書類、手順書、フロー図、「こんな流れで患者さんは動いている」情処の日々ディスプレイと向かい合う日々ではわからない事だった分、とても楽しい仕事でした。

ISO取得と平行するように、JISARTのRTAC審査も行われました。事前審査のための書類作成や提出に関して情処も基礎の部分で少しだけお手伝いすることができました。院長先生がいつも言われていた言葉「いつも通りやればいい、特別なことは何もしなくてもいつも通りやればいいんだ」、審査には全く関係ない部署なのに、気持ちばかりが焦ってしまい、「いつも通りやればいい」と心の中でずっと繰り返していたような気がします。

ISOもRTAC審査も無事に終わり。どちらもとても嬉しい結果になりました。

こんな巨大な山を院長以下全員が手を繋いで2つも登れたこと、それも決死の挑戦ではなく、黙々といつも通りの速さで登れたこと、そして、手を繋いだ中に自分が存在できたこと、とても大きな充実感と誇りを感じています。

今年の春から情処は3人体制になりました。受付にいた梅田が情処で苦しい修行に励むことになりました。对患者さん相手の仕事から、対自分の仕事へ、外来を見、カルテを見、患者さんの顔を見る日々から、ディスプレイと資料を見る仕事へ。環境の変化そして精神的な変化についていくのがとても大変だったと思います。梅田が情処に配属になったのと同時期に日本受精着床学会理事長講演のデータ入力及びチェック・集計作業が始まりました。情処にしてはとても大きなプロジェクトです。全国の協力病院から日々

送られてくるデータを派遣スタッフと共に黙々と入力します。派遣スタッフの入力ミスを見つけるたびに、膨大な入力資料をひっくり返して入力修正を行い、データ精度を上げていくのには、感心してしまいました。医療業務が患者さんにできる直接的な事で、自分が患者さんにできるのは、患者さんに情報をフィードバックすることということが自覚できなければ、黙々と入力ミスを修正は出来ないと思います。

この年報が完成する頃、セント・ルカ産婦人科の情処が集計したデータが大阪で開催される日本受精着床学会の理事長講演の中で発表されていると思います。膨大な量のデータ集計は情処スタッフ3人がかりでも相当な日数を要しました。当初、集計したデータを他の人でもすぐに元データを見ることができるようにと、エクセルで集計を行っていましたが、1つのデータを集計するのに、3つ、4つと条件が重なるとエクセルでは時間だけがかかり能率が上がりません。そこで、エクセルファイルをデータベースファイルに変換して、SarahBase 統計解析を使って集計を行いました。2、3つの条件までならエクセルでもスイスイと行えますが、それ以上になるとやはり SarahBase 統計解析が使えます！検定フィールドはいくつでも同時に選ぶことが出来ますし、同じ条件であれば、サンプル数、平均値、標準偏差などが1回の処理で同時に何種類も出せる事ができるのです。このような巨大なプロジェクトに田舎の小さな病院の普通のスタッフ関わった事は本当に幸せな事です。

最後になりましたが、セント・ルカ産婦人科の研究室内部で、Microsoft 社が出している表計算ソフト「Excel」の得意な人のことを「Excel 婦人」と呼んでいます、それに習って言えば、当院で蓄積された膨大な量のデータ解析に SarahBase を使用しているのですが、研究室には、3人の一流の「SarahBase 婦人」がいることになります。

今回、年報を作成するにあたり、昨年入職したルカ1年生の平松に「SarahBase 婦人」そして「Excel 婦人」になってもらうため、たった一人で全ての集計をしてもらいました。入社1年で院内各部署のほとんどのデータチェックも行うのです。昨年4月、入職したばかりの時に先輩にならい、1度はチェック・集計を行っていますが、その時は頼りになる先輩がいました。今回は一人です。データ集計及び解析は SarahBase 統計解析というツールを使って行っています、実は、この統計解析はとても新人に優しいツールで、昨年行った処理を全て自動でテキスト上に残してくれています。そのテキストさえあれば、それがマニュアルとなって1年生の平松でも難なく膨大な量のデータをチェック・集計することができるのです。しかし、年に1度の大仕事。緊張やストレスは並大抵ではなかったらと思います。この年報は平松の苦勞の結晶であり、大切な子供だと思えます。

この一年、成長するための大きな道筋を示してくれる院長先生の下で、素晴らしいスタッフと一緒に仕事ができることを感謝しています。ありがとうございます。

情報処理室 工藤 由香

外来・入院数 (2004. 4. 1~2005. 3. 31)

	入 院	外 来
4月	133	1,745
5月	76	1,290
6月	143	1,747
7月	126	1,936
8月	141	1,969
9月	117	1,706
10月	131	1,921
11月	158	1,823
12月	115	1,685
1月	103	1,792
2月	153	1,889
3月	116	1,711
合計	1,512	21,214

入院数

(2004. 4. 1~2005. 3. 31)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
手術入院													
腹腔鏡手術	23	13	9	14	18	13	19	25	19	15	20	16	204
子宮内容除去術 (流産のため)	5	7	1	3	2	4	0	3	4	3	3	4	39
子宮筋腫核出術	1	0	5	4	5	3	1	3	0	3	2	3	30
卵胞穿刺術	0	0	2	0	1	2	4	1	1	3	2	2	18
経頸管子宮筋腫切除術(TCR)	2	1	1	0	0	1	4	0	1	0	0	1	11
子宮内膜搔爬術	0	0	0	2	1	0	2	4	2	0	1	0	12
腹腔鏡下子宮外妊娠手術	2	1	3	1	1	0	0	1	0	0	1	0	10
開腹手術 (子宮全摘出術)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
卵巣腫瘍核出術	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
開腹手術 (双角子宮形成術)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
減胎手術	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	3
合計	34	22	21	25	29	24	31	38	27	25	29	26	331

安静入院													
卵巣過剰刺激症候群	1	0	2	3	0	2	2	0	2	1	2	3	18
切迫流産安静	0	2	0	0	2	3	2	2	1	0	0	3	15
その他	0	0	1	1	1	1	0	1	1	0	0	1	7
合計	1	2	3	4	3	6	4	3	4	1	2	7	40

体外受精入院													
採卵	48	20	66	46	52	40	47	61	37	42	56	37	552
胚移植	34	22	39	32	36	32	32	39	28	18	39	24	375
凍結胚移植	16	10	13	19	21	15	17	17	19	17	27	22	213
GIFT, ZIFT, TET	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	98	52	119	97	109	87	96	117	84	77	122	83	1,141

入院総計	133	76	143	126	141	117	131	158	115	103	153	116	1,512
------	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------

妊娠数 (1992. 6. 3~2005. 3. 31)

	周期	1992~1993	1993~1994	1994~1995	1995~1996	1996~1997	1997~1998	1998~1999
体外受精 胚移植	採卵	104	235	270	259	300	328	285
	移植	75	174	209	219	263	268	239
	妊娠	6 (8.0%)	30 (17.2%)	60 (28.7%)	54 (24.7%)	56 (21.3%)	55 (20.5%)	56 (23.4%)
顕微授精 胚移植	採卵	0	66	197	235	249	222	271
	移植	0	43	154	208	236	185	231
	妊娠	0 (0.0%)	4 (9.3%)	19 (12.3%)	38 (18.3%)	35 (14.8%)	34 (18.4%)	33 (14.3%)
凍結融解胚 胚移植 (ICSI後凍結含む)	凍結融解 周期	2	4	8	27	56	92	148
	移植	2	4	8	26	56	90	144
	妊娠	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	9 (16.1%)	15 (16.7%)	34 (23.6%)
配偶子 卵管内移植	採卵	13	43	27	12	10	15	14
	移植	12	42	27	12	10	15	14
	妊娠	2 (16.7%)	12 (28.6%)	8 (29.6%)	4 (33.3%)	3 (30.0%)	5 (33.3%)	1 (7.1%)
接合子 卵管内移植	採卵	0	0	0	8	8	1	12
	移植	0	0	0	8	8	1	12
	妊娠	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	2 (16.7%)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	8	4	7	2	2	0
	移植	0	7	4	6	2	2	0
	妊娠	0 (0.0%)	1 (14.3%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
顕微授精胚 卵管内移植	採卵	0	1	4	5	0	4	2
	移植	0	1	4	5	0	4	2
	妊娠	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	1 (50.0%)
凍結融解 卵管内移植	凍結融解 周期	0	0	0	0	0	2	1
	移植	0	0	0	0	0	2	1
	妊娠	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)
小計	採卵	117	353	502	526	569	572	584
	凍結融解 周期	2	4	8	27	56	94	149
	移植	89	271	406	484	575	567	643
	妊娠	8 (9.0%)	47 (17.3%)	90 (22.2%)	99 (20.5%)	104 (18.1%)	111 (19.6%)	127 (19.8%)
ART以外の妊娠数		130	226	211	235	196	177	178
妊娠総数		138	273	301	334	300	288	305

妊娠数 (1992. 6. 3~2005. 3. 31)

	周期	1999~2000	2000~2001	2001~2002	2002~2003	2003~2004	2004~2005	合計
体外受精 胚移植	採卵	220	142	124	178	124	91	2,660
	移植	184	116	93	129	89	52	2,110
	妊娠	48 (26.1 %)	44 (37.9 %)	33 (35.5 %)	48 (37.2 %)	35 (39.3 %)	13 (25.0 %)	538 (25.5 %)
顕微受精 胚移植	採卵	356	325	377	347	425	458	3,528
	移植	283	242	272	219	300	322	2,695
	妊娠	36 (12.7 %)	55 (22.7 %)	59 (21.7 %)	51 (23.3 %)	72 (24.0 %)	61 (18.9 %)	497 (18.4 %)
凍結融解胚 胚移植 (ICSI後凍結含む)	凍結融 解周期	101	184	201	258	233	246	1,560
	移植	88	162	137	174	188	213	1,292
	妊娠	22 (25.0 %)	40 (24.7 %)	46 (33.6 %)	45 (25.9 %)	40 (21.3 %)	49 (23.0 %)	301 (23.3 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	11	4	1	2	0	1	153
	移植	11	4	1	2	0	1	151
	妊娠	2 (18.2 %)	1 (25.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	38 (25.2 %)
接合子 卵管内移植	採卵	4	10	0	0	0	0	43
	移植	4	10	0	0	0	0	43
	妊娠	1 (25.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	5 (11.6 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	0	0	23
	移植	0	0	0	0	0	0	21
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	2 (9.5 %)
顕微受精胚 卵管内移植	採卵	0	1	0	0	0	1	18
	移植	0	1	0	0	0	1	18
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	5 (27.8 %)
凍結融解 卵管内移植	凍結融 解周期	0	0	0	0	0	0	3
	移植	0	0	0	0	0	0	3
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (33.3 %)
小計	採卵	591	482	502	527	549	551	6,425
	凍結融 解周期	101	184	201	258	233	246	1,563
	移植	570	535	503	524	577	589	6,333
	妊娠	109 (19.1 %)	140 (26.2 %)	138 (27.4 %)	144 (27.5 %)	147 (25.5 %)	123 (20.9 %)	1387 (21.9 %)
ART以外の妊娠数		161	165	171	162	161	159	2,332
妊娠総数		270	305	309	306	308	282	3,719

・採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出ます。

外来患者及び妊娠結果の内訳

(2005. 3. 31 現在)

1. 当院の患者数

1) 開院 (1992. 6. 3) ~ 本年 (2005. 3. 31) までの外来患者数

13,253 人

(内訳) 男性 4,053 人 (30.6%) (平均年齢 33.1 才)

正常 1,736 人 (42.8%) 異常 2,317 人 (57.2%)

女性 9,200 人 (69.4%) (平均年齢 30.7 才)

・ 拳児希望の女性 6,716 人 (73.0%) (平均年齢 30.8±4.4 才)

・ 妊娠件数 3,719 件 (平均年齢 31.3±4.1 才)

・ 妊娠に至らなかった女性 3,466 人

2) 妊娠率(患者あたり) 48.4% $\{(6,716-3,466)/6,716\}$

3) 治療を途中で諦めた女性 3,170 人 (47.2%)

a) 諦めざるをえなかった人(無精子症, 早発閉経, 高齢など) 599 人 (8.9%)

b) いつの間にか諦めた人 2,571 人 (38.3%)

4) 実妊娠率(aを除く患者あたり) 78.4% $\{(6,716-3,466)/6,716-(3,170-599)\}$

5) 実妊娠率(a, bを除く患者あたり) 91.7% $\{(6,716-3,466)/(6,716-3,170)\}$

2. 妊娠の内訳

他院へ紹介済	2,758 例	(74.16%)
流産	753 例	(20.25%)
子宮外妊娠	105 例	(2.82%)
胞状奇胎	14 例	(0.38%)
中絶	1 例	(0.02%)
不明	88 例	(2.37%)
計	3,719 例	(100%)

3. 出産結果 (他院へ紹介済の 2,758 例中、妊娠結果が判明している 2,474 例について)

1) 妊娠結果

満期産	2,128 例	(86.02%)
満期産+死産*	2 例	(0.08%)
満期産+外妊*	1 例	(0.04%)
早産	273 例	(11.03%)
早産+死産*	7 例	(0.28%)
過期産	13 例	(0.53%)
死産	24 例	(0.97%)
流産	20 例	(0.81%)
流産+死産*	1 例	(0.04%)
奇形中絶	3 例	(0.12%)
人工妊娠中絶	2 例	(0.08%)
計	2,474 例	(100%)

2) 多胎妊娠について

単胎	2,201 例	(89.0%)	2,201 児
双胎	257 例	(10.4%)	514 児
品胎	16 例	(0.6%)	48 児
計	2,474 例	(100%)	2,763 児

3) 出生児の状態

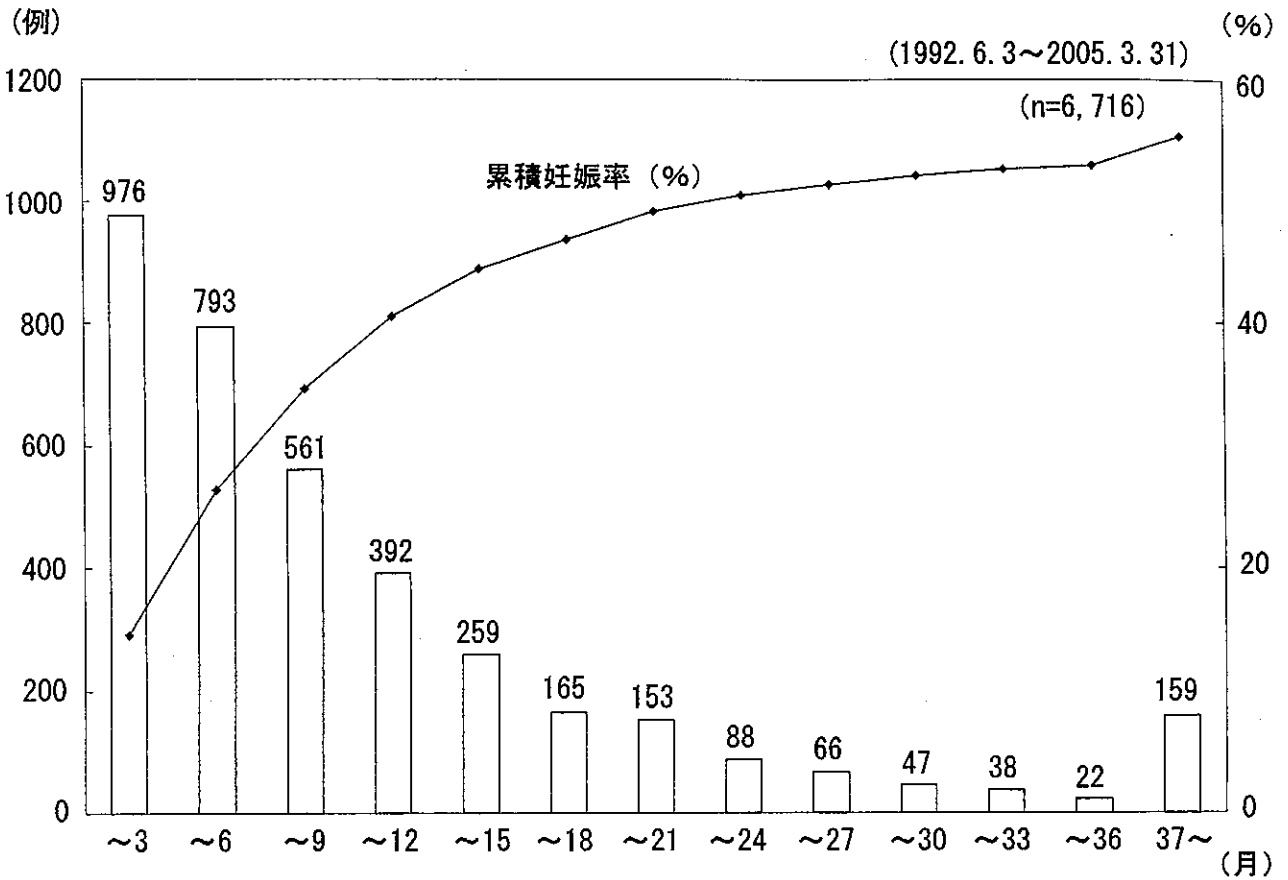
正常	2,062 児	(74.6%)
低体重児	512 児	(18.5%)
異常 (IUGR 等含む)	189 児	(6.9%)
(うち奇形を含む主な異常)	(75 児)	(2.7%)
計	2,763 児	(100%)

4. 妊娠に至った主たる有効治療

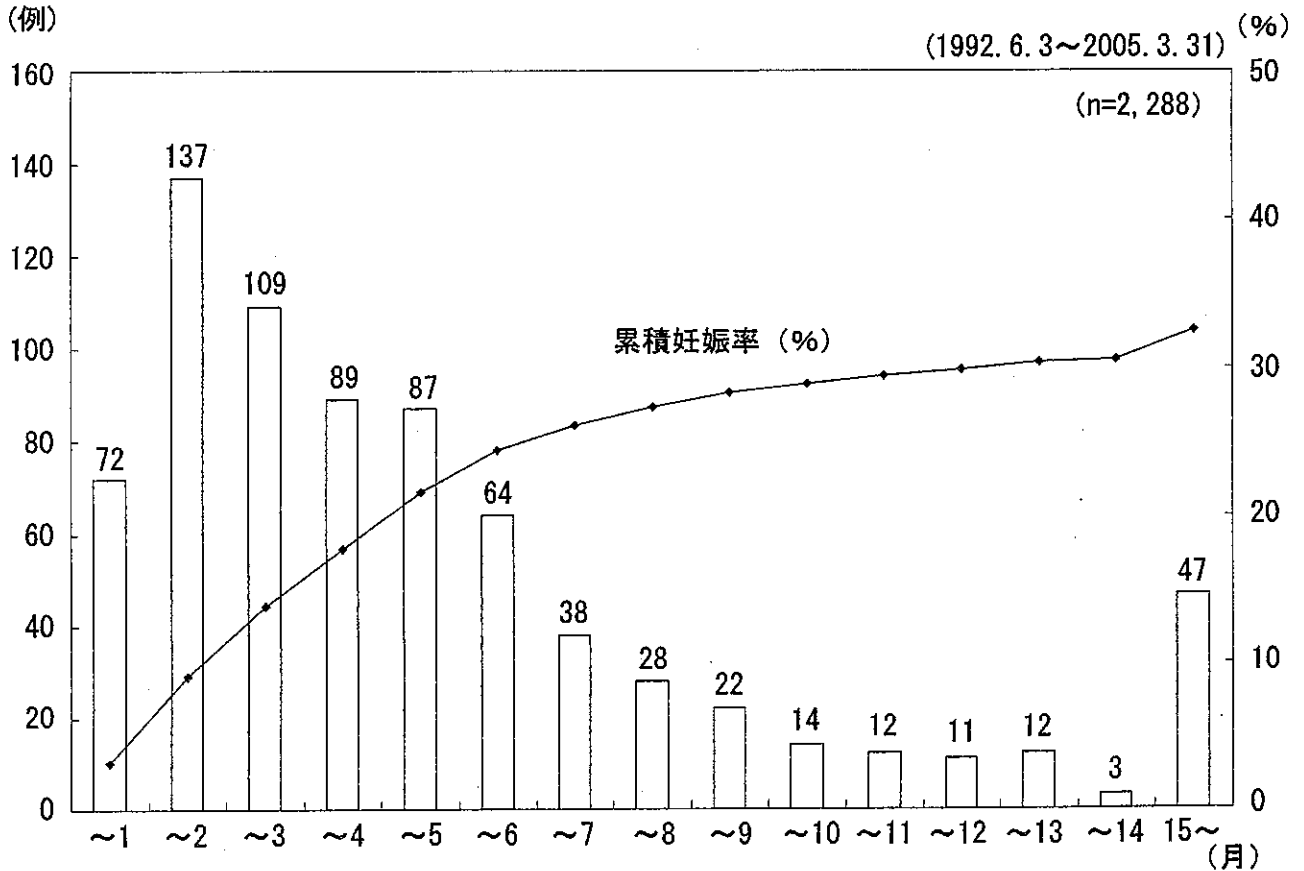
ART (生殖補助医療) 全体	1,387 例	(37.29%)
IVF-ET (体外受精)	540 例	(14.52%)
MF-ET (顕微授精)	502 例	(13.50%)
CRYO-ET (凍結胚移植)	302 例	(8.12%)
GIFT (配偶子卵管内移植法)	38 例	(1.02%)
ZIFT (接合子卵管内移植法)	5 例	(0.13%)
ART 以外	2,332 例	(62.71%)
AIH (人工授精)	632 例	(17.0%)
HMG-HCG	366 例	(9.84%)
HMG-ブセレキュア	2 例	(0.05%)
クロミフェン	326 例	(8.77%)
クロミフェン-HMG	2 例	(0.05%)
タイミング指導	245 例	(6.59%)
ヒューナーテスト時	213 例	(5.73%)
HSG 直後	213 例	(5.73%)
腹腔鏡検査後自然妊娠	207 例	(5.57%)
リンパ球免疫療法	15 例	(0.40%)
その他	111 例	(2.98%)
計	3,719 例	(100%)

(2005/3/31 セント・ルカ産婦人科)

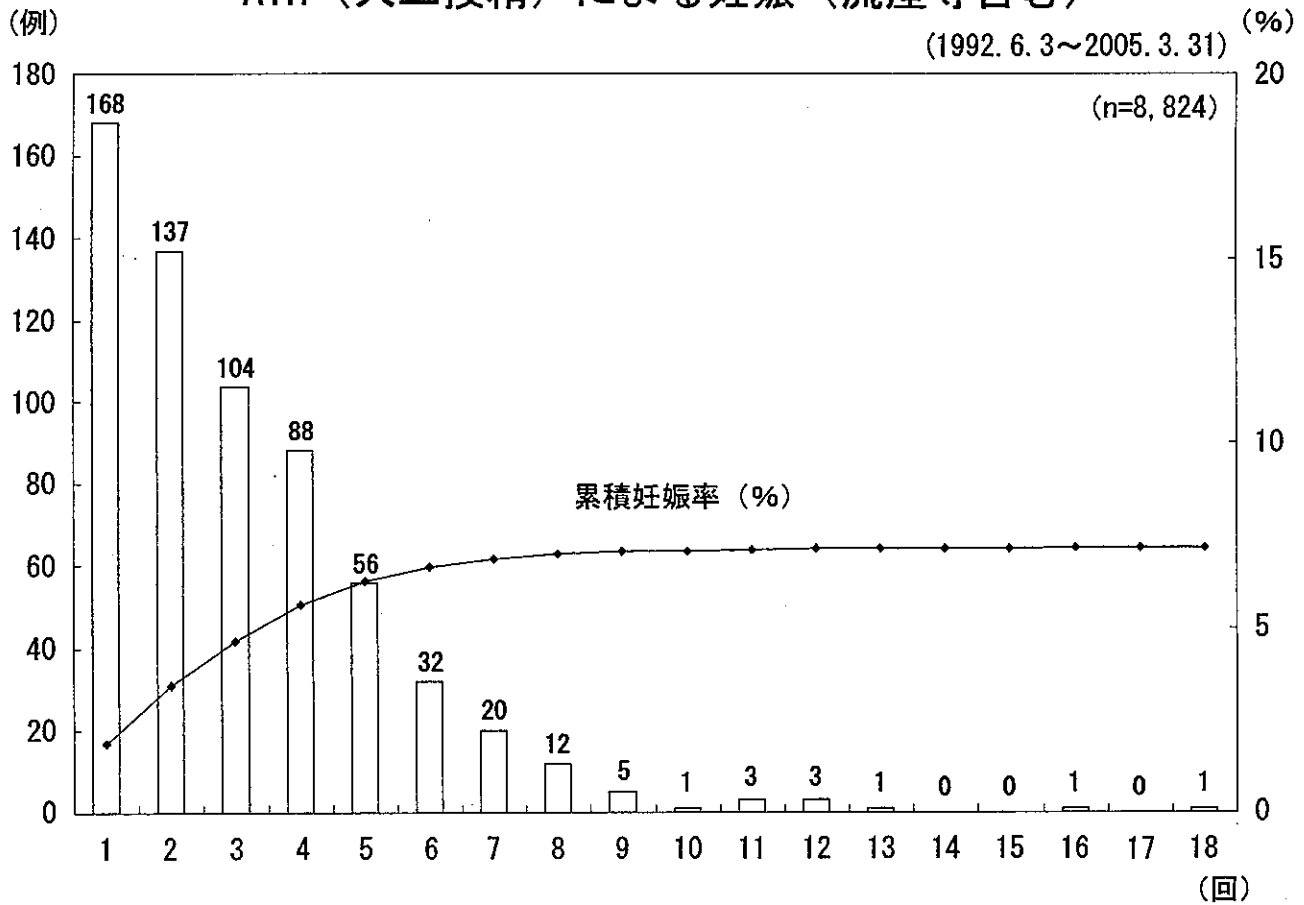
初診後妊娠までの期間



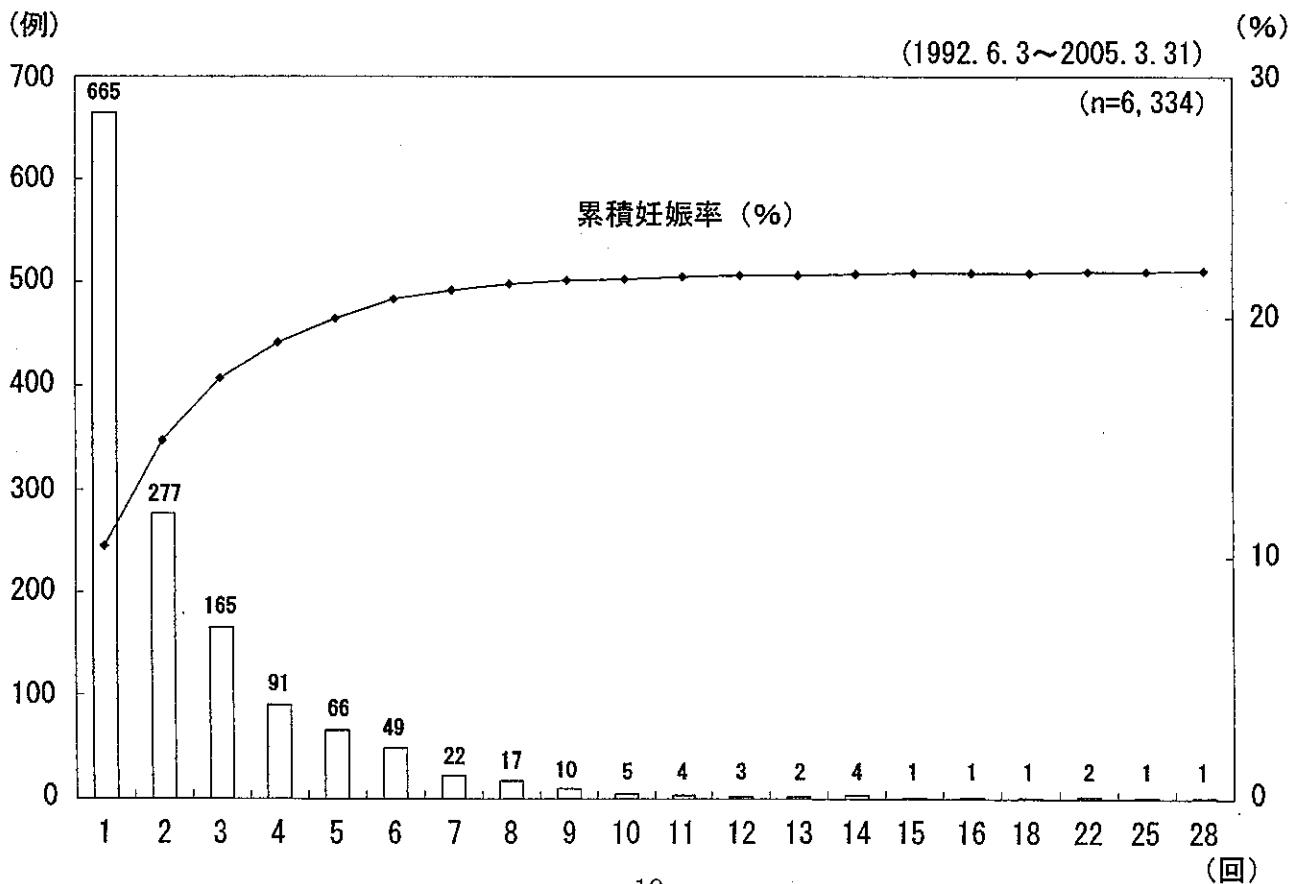
腹腔鏡検査後妊娠までの期間



AIH（人工授精）による妊娠（流産等含む）



ART（生殖補助医療/体外受精・顕微授精・GIFT）による妊娠



ARTによる妊娠 (1992. 6. 3~2005. 3. 31)

	採卵周期数	胚移植周期数 (採卵あたり%)	妊娠周期数 (移植あたり%)	流産周期数 (妊娠あたり%)
IVF-ET	2,683	2,131 (79.4%)	540 (25.3%)	135 (25.0%)
MF-ET (男性因子 以外も含む)	3,546	2,713 (76.5%)	502 (18.5%)	151 (30.1%)
(ICSI)	3,229	2,615 (81.0%)	491 (18.8%)	146 (29.7%)
GIFT	153	151 (98.7%)	38 (25.2%)	13 (34.2%)
ZIFT	43	43 (100%)	5 (11.6%)	1 (20.0%)
CRYO-ET	1,563	1,295 (82.9%)	302 (23.3%)	73 (24.2%)
ART. total	7,988	6,333 (79.3%)	1,387 (21.9%)	373 (26.9%)

ARTによる出産および出生児の状況 (1992. 6. 3~2005. 3. 31)

出産周期	874周期	妊娠結果が判明している874周期に限る		
妊娠結果	満期産	675周期 (77.23%)	死産	12周期 (1.38%)
	満期産、外妊	1周期 (0.11%)	流産	11周期 (1.27%)
	満期産、死産	2周期 (0.23%)	流産、死産	1周期 (0.11%)
	早産	161周期 (18.42%)	奇形中絶	2周期 (0.23%)
	早産、死産	5周期 (0.57%)	人工妊娠中絶	1周期 (0.11%)
	過期産	3周期 (0.34%)		
多胎妊娠に ついて	1078児	単胎	681例 (77.9%)	681児
		双胎	182例 (20.8%)	364児
		品胎	11例 (1.3%)	33児
低体重児	313児 (29.0%)			
異常児	102児 (9.5%)	うち奇形を含む主な異常	45児 (4.2%)	

セント・ルカ産婦人科 1年のあゆみ

(2004. 4. 1～2005. 3. 31)

学会発表	30 題
院長	2
看護部	13
研究室	15
学会講演会参加	31 回
研修会	8 回
論文	6 編
著書 (共著)	8 編 3名
主催講演	4 回
『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座	4 総参加人数 211 名
院長講演	5 回
不妊カウンセラー活動	26 回
新患教室	6 総参加人数 158 名
体外受精教室	12 総参加人数 437 名
ガーネットサークル	3 総参加人数 16 名
オリーブの会	4 総参加人数 19 名
治療を終結した方のお話	1 総参加人数 17 名
院内講習会参加	7 回
京都大学名誉教授、醍醐渡辺クリニック不妊センター長 森崇英先生ご来院・ご指導	1 回
高度生殖医療技術研究所所長 荒木康久先生ご来院・ご指導	3 回
広島大学大学院生物圏科学研究所助手 島田昌之先生ご来院・ご指導	3 回
不妊治療の保険適用に向けての活動	8 回

行事一覧(1)

- 2004 4.1 新職員 平松里美さん(情報処理室)、那須恵さん(研究室)、門屋英子さん(看護部)
- 4.1 参議院議員へ不妊治療の保険適用についてのアンケート調査実施(246通)
- 4.2 第19回大分市医師会産婦人科・内分泌・不妊・代謝懇話会(大分)
参加<平松、佐藤順、梅田、越名、渡邊、那須、佐藤千、佐藤晶、城戸、大津、熊迫、長木、松元、篠田、河野、恵良、工藤い、越光、江藤、柴田、指山>
「免疫の立場からみた習慣流産」(富山医科大学産科婦人科 齋藤滋先生)
- 4.5 高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導
- 4.8 EOG 環境測定 X線漏洩検査
- 4.18 第61回日本不妊学会九州支部会(福岡) 参加<院長>
発表:「高濃度のエストロゲンが存在する卵胞由来ヒト卵子は
高い体外成熟能を有する」(佐藤千賀子)
「体外受精における非受精卵の解析」(公文麻美)
「ART周期の各時期におけるストレス度の変化」(江藤貴美)
「ART周期における不妊症患者の心理的ストレスと
その影響要因について」(上野桂子)
- 4.19 Microsoft SECURE SYSTEM Training for IT Pro #2(大分)
参加<佐藤順、工藤由>
- 4.23 第3回不妊治療の保険適用署名運動 不妊治療施行施設585施設にアンケート送付
- 4.24 第85回体外受精教室 参加者42名 参加<平松、佐藤順、那須、関、門屋、
工藤美、河野、斉高>
- 4.25 大分県医師会代議員会 参加<院長>
- 5.8 第18回『赤ちゃん ~今ならきっと授かる~』講座(大分・トキハ会館)
参加者72名 講師<院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<平松、佐藤順、工藤由、渡邊、那須、平井、篠田、門屋、工藤美、河野、
恵良、江藤、赤嶺、指山、上野>
- 5.15 第45回日本哺乳動物卵子学会(滋賀) 参加<院長>
発表:「高濃度のエストロゲンが存在する卵胞由来ヒト卵子は
高い体外成熟能を有する」(佐藤千賀子)
「体外受精における非受精卵の前核形成阻害の解析」
(公文麻美 日本哺乳動物卵子学会学術奨励賞受賞演題)
胚培養士セッション「顕微授精の適応について」
座長<院長、国際医療福祉大学・臨床医学センター 柳田 薫先生>
「当院のICSI適応基準と妊娠困難例に対する新しい試み」(熊迫陽子)
- 5.20 株式会社HOKS(ISO9001取得企業・大分)見学 参加<平松、工藤由、梅田、那須、
城戸、平井、大津、長木、渡邊、門屋、品矢、原井、柴田、指山>
- 5.22 クリーンルームへパフイルター交換
- 5.23 The First Postgraduate Course Presented by IICO: "Global Perspectives on
Infertility Counseling"(CANADA Montreal) 参加<熊迫、上野、院長>
-

行事一覧(2)

- 5.23 IFFS 18th World Congress on Fertility and Sterility(CANADA Montreal)
参加<院長>
発表：「Successful pregnancy following a safety vitrification method using a straw container to prevent infections in pronuclear embryos」(熊迫陽子)
「Attitudes towards the donation and the surrogacy of infertility patients in Japan」(上野桂子)
- 5.28 竹内レディースクリニックにて PGD 研修(鹿児島) 参加<佐藤晶、大津>
- 5.29 卵巣に関する国際カンファレンス(東京) 参加<院長>
発表：「Human cumulus-oocyte complexes (COCs) recovered from follicles containing high level of E2 have a high in vitro maturational competence」(佐藤千賀子)
「Analysis of the male/female nuclear characters from unfertilized human oocytes in vitro」(公文麻美)
- 6.5 第3回第1期・第2期合同オリーブの会 参加者 6名
- 6.5 第86回体外受精教室 参加者 37名 参加<平松、佐藤順、那須、熊迫、足立、篠田、関、門屋、河野>
- 6.7 第1回 ISO9001 委員会会議
- 6.8 第84回周産期研究会 参加<平松、佐藤順、工藤由、梅田、篠田、松元、門屋、工藤美、赤嶺、恵良、斉高、原井、柴田、上野、院長>
発表：「治療別出生児の所見」(恵良郁絵)
- 6.9 日本哺乳動物卵子学会学術奨励賞受賞祝賀会(大分)
- 6.9 高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導
- 6.9 扶桑薬品工業株式会社 中澤 照喜先生 ご来院・ご指導
- 6.12 Sero Symposia International 2004(東京) 参加<江藤、平井、長木、原井、上野、院長>
SESSION 5 「The Embryo」
Chair<Dr.Takafumi Utsunomiya、Dr.Kaoru Yanagida>
- 6.14 JISART ラボラトリーディレクター研修会(東京) 参加<平井、長木>
- 6.14 第2回 ISO9001 委員会会議
- 6.16 第3回 ISO9001 委員会会議
- 6.18 医療機関における ISO9001 活用セミナー(東京) 参加者<梅田、城戸>
- 6.19 第1回新患講座 参加者 34名 参加<平松、佐藤順、那須、長木、篠田、江藤、赤嶺>
- 6.19 第22回ガーネットサークル OG 1名、参加者 5名
- 6.23 第4回 ISO9001 委員会会議
- 6.26 第16回大分内視鏡下外科手術研究会 参加<工藤由、篠田、工藤美>
発表：「不妊症を主訴とした開腹術後-2nd-look laparoscopy について」(院長)
- 6.30 第5回 ISO9001 委員会会議
- 7.3 第87回体外受精教室 参加者 28名 参加<那須、佐藤晶、足立、関、相良、門屋>
- 7.5 佐世保共済病院(長崎) 新立幸男先生 院内見学のためご来院
- 7.5 片岡レディースクリニック(熊本) 小牧麻美先生 院内研修のためご来院
- 7.7 第6回 ISO9001 委員会会議
-

行事一覧(3)

- 7.9 夜間防災訓練
- 7.10 第33回女性心身医学会学術集会(栃木) 参加<上野>
発表:「不妊治療で妊娠困難な40歳以上の心理的ケアのあり方
ーサポート・グループの取組みについてー」(原井淳子)
- 7.10 日本生殖医療臨床心理カウンセリング研究会世話人会(東京) 参加<院長>
- 7.11 九州医師会共同施設協議会(宮崎) 参加<院長>
- 7.13 ISO9001取得のための研修(レディースクリニック京野・宮城) 参加<城戸、江藤、渡邊>
- 7.13 第67回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 7.14 大分県立看護科学大学講義
講義:「不妊症講座」(院長)
- 7.14 第7回ISO9001委員会会議
- 7.18 生殖バイオロジー 東京シンポジウム(東京) 参加<公文、平井>
発表:「安全なストローを用いた2PN胚凍結法と
Implantation Windowを考慮した胚融解日変更の効果」(院長)
- 7.21 第8回ISO9001委員会会議
- 7.22 広島大学大学院生物圏科学研究科助手 島田昌之先生ご来院・ご指導
- 7.22 新職員 足立小百合さん(受付)
- 7.24 第19回『赤ちゃん ~今ならきつと授かる~』講座(大分・トキハ会館)
参加者55名 講師<院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<平松、佐藤順、工藤由、梅田、那須、城戸、篠田、相良、門屋、河野、
工藤美、赤嶺、上野、指山>
- 7.31 第88回体外受精教室 参加者39名 参加<那須、佐藤晶、足立、関、相良、門屋、
河野、工藤美>
- 8.2 第9回ISO9001委員会会議
- 8.7 第1回治療を終結した方のお話 参加者17名 参加<平松、工藤由、篠田、関、
足立、工藤美、品矢、上野>
- 8.11 第10回ISO9001委員会会議
- 8.17 第11回ISO9001委員会会議
- 8.18 母子保健衛生小委員会 参加<院長>
- 8.21 第2回新患講座 参加者27名 参加<平井、篠田、相良、赤嶺、江藤>
- 8.26 広島大学大学院生物圏科学研究科助手 島田昌之先生ご来院・ご指導
- 8.28 第89回体外受精教室 参加者38名 参加<那須、城戸、足立、関、門屋、斉高>
- 9.2 第49回日本不妊学会(北海道) 参加<院長>
発表:「ART周期の各時期におけるストレス度の変化」(江藤貴美)
「ART周期における不妊症患者の心理的ストレスと
その影響要因について」(上野桂子)
- 9.2 第22回日本受精着床学会(北海道) 参加<長木、熊迫、院長>
発表:「ヒトIVMにおけるプロゲステロン添加は卵子成熟と
卵丘細胞の膨潤を促進する」(佐藤千賀子/世界体外受精記念賞候補演題)
「体外受精における非受精卵の前核形成阻害原因の解析」(公文麻美)
「ヒト胚における前核期形態評価の有用性」(平井香里)
受精・胚発育Ⅲ 座長<院長>

行事一覧(4)

- 9.2 第49回日本不妊学会／第22回日本受精着床学会ブース展示(北海道)
参加<平松、工藤由>
- 9.4 日本生殖医療心理カウンセリング研究会世話人会(北海道) 参加<上野、院長>
- 9.8 第23回心理臨床学会 参加<上野>
- 9.10 ISO9001 概要説明会 日本 LCA 田中氏御来院
- 9.11 明治安田 秋季講座1 乳幼児精神保健講座(東京) 参加<工藤美、上野、院長>
- 9.12 第3回新患教室 参加者17名 参加<那須、長木、篠田、門屋、赤嶺、指山>
- 9.14 第68回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生
- 9.18 日本生殖医療標準化機関(JISART)ミーティング(東京) 参加<院長>
- 9.18 第23回ガーネットサークル OG1名、参加者7名
- 9.21 広島大学大学院生物圏科学研究科助手 島田昌之先生ご来院・ご指導
- 9.25 アルメイダ病院 QC 発表大会(大分) 参加<渡邊、松元、門屋、江藤、原井、指山>
- 9.26 ARMT フォーラム(東京) 参加<長木、院長>
発表:「当院の汚染体験と感染予防法」(公文麻美)
- 9.30 国会請願に対する再度の協力依頼発送 女性議員のみ
- 10.2 「HIV感染妊婦の早期診断と治療および母子感染予防に関する臨床的・疫学的研究」
研究成果発表会 参加<工藤由、佐藤晶、公文、相良、門屋、斉高、上野、指山、
院長>
- 10.7 第12回 ISO9001 委員会会議
- 10.9 第90回体外受精教室 参加者40名 参加<那須、佐藤千、相良、門屋、河野、
足立直>
- 10.9 国会請願に対する再度の協力依頼発送 男性議員のみ
- 10.14 第13回 ISO9001 委員会会議・ISO9001 概要説明会 参加<平松、工藤、梅田、
渡邊、那須、城戸、長木、門屋、江藤、柴田、指山>
- 10.15 第20回大分市医師会産婦人科・内分泌・不妊・代謝懇話会 参加<平松、渡邊、
那須、佐藤晶、城戸、熊迫、長木、松元、相良、門屋、工藤美、恵良、斉高、柴田、
上野、指山>
- 10.15 Kyushu Regional Office 10th Anniversary—ORACLE TORNADO!—(福岡)
参加<工藤由>
- 10.16 病院研修 根岸広明先生(1年間)
- 10.16 第5回第1期・第2期合同オリーブの会 参加者4名
- 10.19 第69回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 10.21 第14回 ISO9001 委員会会議
- 10.23 第91回体外受精教室 参加者24名 参加<公文、関、門屋、斉高、根岸>
- 10.28 第15回 ISO9001 委員会会議
- 10.30 第20回『赤ちゃん ～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館)
参加者46名 講師<院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<平松、工藤由、渡辺、那須、公文、篠田、江藤、赤嶺、上野、指山、根岸>
- 11.1 第3回国会請願のため請願書及び署名簿を紹介国会議員へ郵送(53名)
- 11.4 高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導
- 11.4 根岸広明先生歓迎会
- 11.6 第7回日本 IVF 研究会(大阪) 参加<佐藤晶、城戸、院長>

行事一覧(5)

- 11.9 第70回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
11.9 SarahBase 取材 All About Japan 池上文尋さん
11.10 片岡レディースクリニック(熊本) 大迫亮子先生 院内研修のためご来院
11.11 第16回ISO9001委員会会議
11.13 日本受精着床学会理事会(東京) 参加<院長>
11.13 日本生殖医療心理カウンセリング研究会世話人会(東京) 参加<上野、院長>
11.16 ISO9001 キックオフミーティング 日本LCA 田中氏御来院
11.16 第17回ISO9001委員会会議
11.16 アシストフォーラム2004 in 福岡～博多秋祭り～(福岡) 参加<工藤由>
11.17 片岡レディースクリニック(熊本)野仲由香理先生 院内研修のため御来院
11.18 funin.info(i wish ママになりたい)病院取材
11.18 大分県医師会学会 参加<平松、工藤由、那須、佐藤晶、佐藤千、平井、長木、足立直、関、松元、篠田、二宮、斉高、上野、指山、根岸、院長>
発表：「当院における体外受精教室の現状～教室前後の質問紙調査から～」
(門屋英子)
「男性患者の不妊治療に対する意識調査～初診時～」(恵良郁絵)
「ストローを用いた安全なガラス化急速凍結法」(公文麻美)
「体外受精妊娠困難症例における逆行性精巣上体精子吸引法により採取された精子を用いた顕微授精の新しい試み」(城戸京子)
- 11.18 金沢医科大学産科婦人科学講座 牧野田知先生他1名 施設見学
11.19 豊橋市民病院不妊センター(愛知) 菅沼信彦先生他3名 施設見学
11.20 第92回体外受精教室 参加者39名 参加<長木、足立直、関、斉高>
11.26 第3回国会請願終了
12.2 第18回ISO9001委員会会議
12.4 日本生殖医療標準化機関(JISART)ミーティング(東京) 参加<院長>
12.5 RTAC 監査のための勉強会(東京) 参加<大津、指山、院長>
12.5 受精着床学会 実態調査委員会準備会 参加<院長>
12.7 第71回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
12.11 第4回新患教室 参加者30名 参加<佐藤晶、篠田、江藤>
12.16 ISO委員会会議 日本LCA 田中氏御来院
12.18 第93回体外受精教室 参加者31名 参加<足立直、斉高>
12.21 緊急連絡網の訓練
12.22 大分県立看護科学大学講義 講師<上野、院長> 参加<工藤由、渡邊、那須、長木、河野、指山>
講義：「不妊症講座」(院長)
「不妊症講座－心理とサポーター」(上野桂子)
- 12.22 忘年会
12.25 クリスマス会(セント・ルカ多目的ホール)
12.28 ISO委員会会議 日本LCA 田中氏御来院
1.4 新年会(セント・ルカ多目的ホール)
1.9 日本臨床エンブリオロジスト研究会「10周年記念大会」(東京) 参加<那須、佐藤晶、城戸、院長>
セミナー講演：「妊娠率を高める培養液の検討」(平井香里)

行事一覧(6)

- 1.10 第12回 医療における心理臨床ワークショップ(岡山) 参加<上野>
- 1.11 第72回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 1.15 第21回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館)
参加者38名 講師<上野(心理士)、院長> 参加<足立小、大津、篠田、河野、
工藤美、江藤、原井、根岸>
- 1.15 ISO委員会会議 日本LCA 田中氏御来院
- 1.23 第2回 日本生殖医療心理カウンセリング研究会・学術集会(東京) 参加<平松、
工藤由、渡邊、門屋、上野、根岸>
教育セミナー講演:「生殖医療の現状と問題点、最新トピックス」(院長)
発表:「ART周期の各時期におけるストレス度の変化」(江藤貴美)
「男性患者の不妊治療に対する意識調査～初診時～」(恵良郁絵)
- 1.25 市川婦人科クリニック Sarah Base 統計解析指導(大阪) 参加<工藤由>
- 1.26 石渡産婦人科 Sarah Base デモンストラーション(茨城) 参加<工藤由>
- 1.28 九州臨床心理学会(別府)
発表:「不妊クリニックにおける心理士の取り組み」(上野桂子)
- 1.29 第94回 体外受精教室 参加者46名 参加<大津、関、足立直、斉高>
- 1.29 第24回 ガーネットサークル OG1名、参加者4名
- 2.1 ISO委員会会議 日本LCA 田中氏御来院
- 2.5 第5回 新患教室 参加者26名 参加<足立小、平井、篠田、河野、江藤>
- 2.5 平成16年度(第2回)大分県医師会 ITフェア 参加<平松、工藤由>
- 2.8 第73回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 2.15 RTAC 審査 Dr. Douglas Saunders・Mr. Ian Pike・Ms. Elizabeth Pearce・
後藤哲也先生(東京 HART クリニック 医師)・出口美寿恵先生(広島 HART
クリニック 看護師)・松本亜樹子さん(Fine<Fertility information Network>)・
米田千佳子さん(Fine)・藤木美里さん(JISART 事務局) 審査のため御来院
- 2.17 ISO委員会会議 日本LCA 田中氏御来院
- 2.18 きよせの森総合病院副理事長武谷様院内見学のため御来院
- 2.21 京都大学名誉教授・醍醐渡辺クリニック 不妊センター長 森崇英先生との
ミーティング(京都) 参加<佐藤千>
- 2.22 第86回 大分周産期研究会 参加<平松、工藤由、渡邊、篠田、関、門屋、工藤美、
江藤、斉高、赤嶺、原井、指山、根岸、院長>
発表:「サポート・グループ参加が不妊症患者の心理的ストレスに
及ぼす効果について」(上野桂子)
- 2.26 第95回 体外受精教室 参加者34名 参加<足立小、恵良、斉高>
- 2.26 第6回 第1期・第2期 合同オリーブの会 参加者5名
- 3.1 金沢医科大学(石川) 吉田勝彦先生研究のため御来院(~3/28まで)
- 3.3 大分臨床談話会 参加<工藤由、渡邊、柴田、指山、根岸>
講演:「生命の始まりの神秘と環境」(院長)
- 3.5 第6回 新患教室 参加者24名 参加<長木、篠田、河野、江藤>
- 3.6 職員旅行(北海道組 第1陣) 参加<平松、工藤由、足立小、梅田、渡邊、
佐藤晶、長木、二宮、門屋、原井、上野、院長>
- 3.6 職員旅行(広島組) 参加<公文、大津>
- 3.10 ISO委員会会議 日本LCA 田中氏御来院
-

行事一覧(7)

- 3.12 第9回 日研シンポジウム(東京) 参加<院長>
- 3.13 日本生殖医療標準化機関(JISART)ミーティング(東京) 参加<院長>
- 3.13 職員旅行(北海道組 第2陣) 参加<那須、城戸、平井、足立直、関、篠田、江藤、恵良>
- 3.15 第74回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 3.17 第4回 秋田県 生殖・内分泌研究会(秋田)
特別講演:「不妊治療をめぐる当院の経験と最近の話題」(院長)
- 3.19 第96回 体外受精教室 参加者39名 参加<足立小、足立直、恵良、斉高、根岸>
- 3.19 第1回 第3期オリーブの会 参加者4名
- 3.25 個人情報保護法施行に伴う説明会 参加<工藤由、渡邊、長木、柴田、指山、院長>
- 3.26 宮川勇生教授退職記念講演会 参加<平松、工藤由、足立小、梅田、越名、渡邊、那須、佐藤晶、佐藤千、城戸、公文、平井、大津、長木、関、足立直、門屋、工藤美、江藤、斉高、指山、根岸、院長>
「生殖医療はいま…」(熊本大学医学部 産科婦人科教授 岡村均先生)
「17年間の教育・研究・診療を振り返って」
(大分大学医学部 産科婦人科学教授 宮川勇生先生)
- 4.2 セント・ルカ産婦人科&メディテック・ルカ合同お花見(大分・平和市民公園)
- 4.3 日本生殖医療心理カウンセリング研究会世話人会議(京都) 参加<上野、院長>
- 4.5 個人情報保護法対応速習講座およびISO委員会会議 日本LCA 田中氏御来院
- 4.8 第21回大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会 参加<平松、工藤由、足立小、梅田、越名、渡邊、那須、佐藤晶、城戸、長木、工藤美、柴田、指山、上野、根岸、院長>
「母体血清マーカーテストによる出生前スクリーニングの意義」
(東京慈恵会医科大学産婦人科 田中忠夫先生)
- 4.9 第22回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館)
参加者58名 講師<上野(心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<越名、熊迫、河野、江藤篠田、指山、根岸>
- 4.12 第75回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 4.14 ISO委員会会議 日本LCA 田中氏御来院
- 4.15 第8回 全国縦断!オラクルテクノロジーセミナーin大分 参加<平松、工藤由>
- 4.17 第62回 日本不妊学会九州支部会(福岡) 参加<根岸、院長>
発表:「未成熟卵における1日前培養後のICSI(1 day old ICSI)の検討」(那須恵)
「体外受精妊娠困難例における逆行性精巣上体精子吸引法により採取された精巣上体精子を用いた卵細胞質内精子注入法の新しい試み」(城戸京子)
「男性患者の不妊治療に対する意識調査～初診時～」(恵良郁絵)
「治療終結期の意思決定に対する患者の心理
～妊娠に至らず治療終結を決意した元患者を囲んで～」(上野桂子)

行事一覧(8)

- 4.23 第3回 セント・ルカ ミニセミナー
講師 杉野 利久 先生<広島大学大学院生物圏科学研究科助手>
「新規消化管ホルモン：グレリン」
講師 森 崇英 先生<京都大学名誉教授・醍醐渡辺クリニック不妊センター長>
「卵の発生支持能とその調節」
座長 宮川 勇生 先生 <大分大学医学部名誉教授>
- 4.24 京都大学名誉教授・醍醐渡辺クリニック不妊センター長 森崇英先生
ご来院・ご指導
- 4.30 第97回 体外受精教室 参加者 55名 参加<足立直、斉高>
- 4.30 第2回 第3期オリーブの会 参加者 8名
- 5.3 品質マニュアル勉強会 日本 LCA 田中氏御来院
- 5.7 第7回 新患教室 参加者 26名 参加<平井、江藤、篠田、指山>
- 5.7 第7回 第1期・第2期 合同オリーブの会 参加者 5名
- 5.12 ISO9001 内部監査員研修 日本 LCA 田中氏御来院
- 5.14 第21回 北海道産婦人科生殖医学研究会(北海道)
講演：「不妊治療をめぐる当院の経験と最近の話題」(院長)
- 5.16 新職員 三重野直美さん(看護部)
- 5.17 第76回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 5.19 岡本クリニック(大阪) Sarah Base デモンストレーション 参加<工藤>
- 5.19 ISO9001 内部監査 日本 LCA 田中氏御来院
- 5.21 第16回 哺乳動物卵子学会(八戸) 参加<院長>
発表：「未成熟卵における一日前培養後の ICSI(1 Day old ICSI)の検討」(那須恵)
「体外受精妊娠困難例における逆行性精巣上体精子吸引法により採取された
精巣上体精子を用いた卵細胞質内精子注入法の新しい試み」(城戸京子)
- 5.25 13th WORLD CONGRESS ON IN VITRO FERTILIZATION ASSISTED
REPRODUCTION & GENETICS (ISTANBUL) 参加<院長>
発表：「Quality of human follicular oocytes as assayed by cumulus cell
morphology and progesterone production for in vitro maturation」
(佐藤千賀子)
「Optimization of timing of embryo transfer by using cryopreservation」
(平井香里)
- 5.29 第9回 妊娠・出産をめぐる自己決定権を支える会(東京) 参加<門屋、上野>
- 6.2 個人情報保護対策セミナー 参加<渡邊、長木、指山>
- 6.4 第3回 第3期オリーブの会 参加者 5名
- 6.4 JISART に対する Sarah Base デモンストレーション(東京) 参加<工藤由、長木>
- 6.5 JISART シンポジウム(東京) 参加<長木、柴田、院長>
発表：「JISART 審査報告(研究室)」(大津英子)
- 6.5 山王病院 Sarah Base デモンストレーション(東京) 参加<工藤>
- 6.8 アシストセキュリティセミナー 「どこまでできる!?
Oracle データベースセキュリティの現実」 参加<平松、工藤由>
- 6.9 ISO9001 事前調査 NQA・JAPAN 平手氏・勝又氏、日本 LCA 田中氏御来院
-

行事一覧(9)

- 6.9 大分市医師会学術講演会 参加<平松、梅田、工藤由、足立小、越名、渡邊、那須、佐藤晶、佐藤千、城戸、平井、長木、関、篠田、門屋、江藤、恵良、柴田、指山、院長>
「患者第一の医療の実践ーコミュニケーションが救う医療環境」
(元ジョンズ・ポプキンス病院国際部
ペイシエント・コーディネーター 岡本佐和子先生)
- 6.10 第1回 生殖・不妊心理カウンセラー養成講座(東京) 参加<上野>
- 6.10 DocuWorks から始めるセキュリティ対策 参加<平松、梅田、工藤由>
- 6.11 第8回 新患教室 参加者41名 参加<熊迫、篠田、江藤>
- 6.11 第25回 ガーネットサークル 参加者5名
- 6.14 第77回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 6.15 IBM ばそこん教室ホームページ作成講座 ホームページ・ビルダーVer9
エディターズ(福岡) 参加<梅田>
- 6.16 ISO9001 内部監査 日本LCA 田中氏御来院
- 6.18 第17回 大分内視鏡下外科手術研究会 参加<松元、斉高、原井、指山、上野、院長>
発表:「不妊症患者における腹腔鏡検査前後の心理」(河野絢子)
- 6.21 ISO9001 マネジメントレビュー 日本LCA 吉川氏御来院
- 6.21 第87回 周産期研究会 参加<平松、梅田、工藤由、足立小、渡邊、那須、平井、大津、足立直、斉高、松元、関、篠田、江藤、恵良、越光、原井、柴田、指山、上野、根岸、院長>
発表:「不妊症患者における腹腔鏡検査前後の心理」(河野絢子)
- 6.23 ISO9001 文書審査 NQA-JAPAN 両角氏、宮口氏御来院
- 6.24 石川クリニック(大阪) エンブリオロジスト 小野崎美絵先生
Sarah Base 見学のため御来院
- 6.25 石川クリニック(大阪) 看護師長 大谷久子先生
エンブリオロジスト 小野崎美絵先生 Sarah Base 見学のため御来院
- 6.25 第98回 体外受精教室 参加者73名 参加<足立直、斉高、恵良>
- 6.26 石川クリニック(大阪) 石川元春先生・ラボディレクター 石川慶子先生
Sarah Base 見学のため御来院
- 7.2 第4回 第3期オリーブの会 参加者3名
- 7.3 生殖心理カウンセリング研究会 世話人会(東京) 参加<院長>
- 7.4 ART 女性クリニック(熊本) 小山伸夫先生・中田涼美さん
院内見学・研修のため御来院
- 7.6 ISO9001 内部監査 日本LCA 田中氏御来院
- 7.6 IVF なんばクリニック(大阪) エンブリオロジスト 辻陽子先生
プルービジョン 三井啓氏 Sarah Base 見学のため御来院
- 7.9 第1回 島根不妊・内分泌研究会(島根)
講演:「不妊治療をめぐる当院の経験と最近の話題」(院長)
- 7.9 第8回 第1期・第2期 合同オリーブの会 参加者3名
- 7.12 ISO9001 本審査 NQA-JAPAN 両角氏、川合氏、富野氏御来院
-

行事一覧(10)

- 7.13 大分県立看護科学大学講義 参加<平松、工藤由、越名、那須、柴田、指山、根岸>
講義:「不妊症講座」(院長)
- 7.16 第23回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館)
参加者53名 講師<院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
- 7.19 ART女性クリニック(熊本) 森川絵里香さん 研修のため御来院
- 7.23 A-PART(東京) 参加<佐藤晶、大津、院長>
- 7.24 生殖バイオロジー東京シンポジウム(東京) 参加<佐藤晶、大津、院長>
- 8.4 第23回 日本受精着床学会総会・学術講演会(大阪) 参加予定<根岸>
Round table Discussion 「Poor Responder をどう扱うか(仮)」 座長予定<院長>
発表予定:「ヒト卵・卵丘細胞複合体の形態像と卵子の体外成熟能・発生能との相関」
(佐藤千賀子)
「体外受精妊娠困難例における逆行性精巣上体精子吸引法により
採取された精巣上体精子を用いた卵細胞質内精子注入法の新しい試み」
(城戸京子)
「ウレアプラズマ感染が生殖補助医療(ART)に及ぼす影響」(長木美幸)
「着床前診断の有用性」(大津英子)
「男性患者の不妊治療に対する意識調査～初診時～」(恵良郁絵)
「治療終結期の意思決定に対する患者の心理
～妊娠に至らず治療終結を決意した元患者を囲んで～」(上野桂子)
- 8.19 第2回 生殖・不妊心理カウンセラー養成講座(東京) 参加予定<上野>
- 8.28 第12回 セント・ルカセミナー開催予定
講師 荒木 康久先生 <高度生殖医療技術研究所所長>
「ARTにおけるエンブリオロジストの役割」
講師 佐藤 芳昭先生 <ソフィアレディスクリニック院長>
「女性の健康と血流」
講師 松本 亜樹子さん <Fine<Fertility information Network>代表>
「私にとっての不妊治療～今だから思うこと～」
講師 森 崇英先生 <京都大学名誉教授、醍醐渡辺クリニック不妊センター長>
「多嚢胞性卵巣症候群現況と今後の課題」
- 10.28 第3回 生殖・不妊心理カウンセラー養成講座(東京) 参加予定<上野>

行事一覧(11)

11.16 第50回 日本不妊学会(熊本)

発表予定:「ヒト卵・卵丘細胞複合体の形態像と卵子の体外成熟能・発生能との相関」

(佐藤千賀子)

「ヒト初期胚における割球大小不同と染色体異常の関係」(佐藤晶子)

「ヒト卵丘細胞卵子複合体(COC)の成熟に及ぼす

FSHプライミングの意義」(熊迫陽子)

「男性患者の意識調査～初診時、腹腔鏡検査(ラパロ)付き添い時、

IVF施行時を比較して～」(恵良郁絵)

「治療終結期の意思決定に対する患者の心理

～治療終結に関する質問紙調査から～」(門屋英子)

「治療終結期の意思決定に対する患者の心理

～妊娠に至らず治療終結を決意した元患者を囲んで～」(上野桂子)

- 2004 「A Prospective, Randomized Study: Day-3 versus Hatching Blastocyst Stage.」 (院長)
Hum.Reprod. Vol.19, No.7 pp1598-1603, 2004
- 「The developmental potential and the chromosomal constitution of embryos
derived from larger single pronuclei of human zygotes used in invitro fertilization」
(大津英子) Fertil.Steril. Vol.81, No.3 pp723-724, March 2004
- 「How many times should we try ART?」 (院長) Hum.Reprod. (投稿中)
- 「Transfer of Embryos Vitriified and Thawed by Ascertainig Synchronicity between
Embryonic Development and Endometrial Maturity to Determine the implantation
Window.」 (院長) Hum.Reprod. (投稿中)
- 2005 「Successful pregnancy after the vitrification of zygotes using commercial vitrification
solutions and conventional straw to protect from infections in the liquid of nitrogen.」
(熊迫陽子) J Assist Reprod Genet Vol.22, No.1 January 2005
- 「体外受精後未受精卵であった前核形成阻害の原因解析」 (公文麻美)
日本受精着床学会雑誌 (投稿中)

著書(共著)一覧

- 2004 「培養液」(院長) 『生命誕生に向けて—生殖補助医療胚培養士講習会テキスト—』
(日本哺乳動物卵子学会)
- 「生殖補助医療(ART)と経済的負担」(院長)
『産婦人科の世界 56 巻 8 号 特集/生殖医療が直面する倫理課題』(医学の世界社)
- 「胚移植の方法(新鮮胚, 凍結胚)」(院長)
『ART 必須技術マニュアル』(医歯薬出版株式会社)
- 「卵子・胚凍結-急速凍結法-Straw②」(熊迫陽子)
『ART 必須技術マニュアル』(医歯薬出版株式会社)
- 2005 「赤ちゃんがやってくる はやく気づいて!不妊症」(院長)(有限会社メディテック・ルカ)
- 「ART 治療の経済的負担と公的支援」(院長)
『コメディカルのための ART マニュアル』(永井書店)(印刷中)
- 「生殖医療のグループカウンセリング」「加齢患者に対するカウンセリング」(上野桂子)
『コメディカルのための ART マニュアル』(永井書店)(印刷中)
- 「胚盤胞培養」(公文麻美)
『コメディカルのための ART マニュアル』(永井書店)(印刷中)

セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明

セント・ルカセミナー 開催頻度：1回／1年

セント・ルカ産婦人科開院記念行事として、毎年8月に行っている。

国内外から、著名な先生方をお招きして、当院多目的ホールにてシンポジウムを行っている。

セミナー前日には、懇親会も行われ、医師、エンブリオロジストの貴重な情報交換の場として役立っている。セミナー開催にあたって、企画・立案・運営までを全て当院で行っている。

『赤ちゃん～今ならきつと授かる～』講座 開催頻度：1回／3ヵ月

(不妊検査・治療についての説明会。主として初診間もない患者さんが対象)

2000年までは、2年毎の開催であったが、広く不妊治療を知ってもらう目的で、2001年からは、3ヶ月に1回、市内のホテルで行い、参加者の方が、ゆったり、リラックスしていただけるように、コーヒーとケーキを用意している。パソコンプロジェクターを使用し1時間程詳しく院長がお話をした後、不妊治療に協力的な泌尿器科の先生に男性不妊の治療説明などをしていただき、2005年からは心理士による心のお話も行っている。次に当院 OG (当院で治療後赤ちゃんを授かり出産へと至った方) のお話を1時間程聞く事ができる。OG自身の治療歴から始まり、治療中に立ち上がる大きな壁をどうやって越えたのか、心の中で日々大きくなる悩みやストレスに対する対処の仕方など、患者さんの気持ちで参加者にお話ができるため好評である。

ガーネットサークル 開催頻度：1回／3ヵ月

(ART中の患者さんに対するART経験者によるアドバイスの会)

当院で10回前後体外受精を行い、出産へと至った方をお願いをして、現在体外受精を受けられている患者さん、これから受けられる患者さんとの交流の場を設けている。体外受精に対する精神的なストレスの発散場所として、経験者の話を聞く事により、患者さんの視野を広げ、悩んでいるのは自分ひとりではないのだということの再認識もできる貴重な会である。

ガーネットサークルの由来は、ガーネットの和名「ざくろ石」からきている。ざくろは風水では子宝に恵まれるという意味を持っているので、全ての患者さんが子宝に恵まれる事を祈って、ガーネットサークルと名づけた。

オリーブの会 (第1～3期) 開催頻度：1回／1ヵ月

(比較的高齢者の患者さんの集い)

治療を進めていく上で、焦りやストレスを感じている不妊患者さんが多い。その上、治療に対するストレスだけでなく年齢的な焦りと直面した患者さんは近年増加している。このような患者さんへのサポートの必要性を感じ立ち上げられた会である。対象年齢を40歳以上とし、心理士と看護師を交えてお茶を楽しみながらリラックスした自由な話し合いの場を設けている。

治療を終結した方のお話 開催頻度：1回/1年

(比較的高齢者の患者さんの集い)

以前不妊治療をしていた方(現在はご夫婦だけの生活を選ばれた)に、現在、不妊治療をしている患者さんに対して、当時の治療や現在の生活についてのお話をしていただく会

体外受精教室 開催頻度：1回/1ヵ月(毎月第4土曜日)

(ARTにすすむ患者さんへの説明会)

初めて体外受精を受けられる患者さん向けに、体外受精治療の過程や、体外受精前後の体の変化など、院長が3-4時間かけて分かりやすく説明している。パソコンプロジェクターを使用し、写真や画像を多用しているため、より身近に、より分かり易い内容となっている。ほとんどの患者さんがご夫婦で参加されるため、夫婦とも同じラインで体外受精について考える事ができ、その後の治療にも役立っている。

新患教室 開催頻度：1回/1ヵ月

(主として初診から1ヶ月以内の患者さんが対象)

2004年5月までは、3ヵ月に1度市内のホテルで行っていた「赤ちゃん～今ならきっと授かる～」講座を、さらに気軽に参加でき、広く不妊治療を知ってもらおうという目的で2004年6月からは毎月開催している。当院の多目的ホールにて、院長が3時間程初診時の検査から体外受精までを詳しく説明している。早い時期に夫婦で参加する為(30~40名)、治療の理解が深まり、その後の治療にも役立っている。

新患オリエンテーション 開催頻度：初診時

新患さんの検査、診察終了後に主任クラスの看護師が行っている。1時間程かけて、写真や資料を使い患者さんへ病状の説明、今後の治療のすすみ方や費用面での説明をしている。また、診察時に患者さんが言えなかった訴えを受け止め、心配していることの相談などを行っている。

なんでも相談 開催頻度：毎週土曜日午後(予約制)

(主任クラスの看護師による相談)

不妊治療に従事する者として、不妊という悩みを抱えた患者さんを支える為に教育された看護スタッフにより行われている。患者さんが抱えているストレスや悩み、治療についての質問など、なんでも相談できる場として設けている。

院長相談 開催頻度：毎週月・水・金の18:00~(予約制)

普段の診療で聞けなかった事や、なんとなく疑問に思っていることを、他の患者さんを気にすることなく、ゆつくりと院長に相談できる。理解できるまで、分かりやすく説明が聞けるので、患者さんに好評である。

心理専門相談室 開催頻度：毎週火・金・土の午前中（予約制）

2001年より、専門の心理士による、きめ細やかな相談業務が行われている。患者さんが抱える深刻な悩みを、幅広く受け止められるよう努めている。今後、さらなる需要が求められるであろう。

院内研修 開催頻度：毎週火曜日午後

毎週火曜日の午後、職員全員を集めての院内研修およびミーティングを行っている。

研究室・検査室からは、研究結果の発表、海外論文詳読、各部署より医療過誤につながりうる可能性のミスを報告し、今後の為に協議する「ハッとしたこと」報告、また、その週に治療を受ける患者さんについて、治療方針を話し合うなど、4時間程のミーティングを行っている。

このミーティングにより、全職員の意思統一が図れ、患者さんのケアにも役立っている。ミーティングの最後には「一人一言」の時間をもうけ、個人個人の考えを述べる機会を作っている。

研究室朝ミーティング 開催頻度：毎朝 20分程

研究室の職員と院長とで培養中の胚の観察結果報告や、当日行われる採卵予定患者さんの検査結果報告、胚移植予定者報告を行っている。また、個人が担当している研究の途中経過報告や新しい研究の提案など活発な意見交換も行われている。

研究室ミーティング 開催頻度：月 2回午後半日

研究室の職員全員で、日常業務や各々の研究テーマ、基礎知識に関する勉強会を行ったり、SarahBaseを用いたデータ整理に関する検討を行っている。

その他 開催頻度：随時

外来相談係（看護部）

患者さんからの質問に答えると共に、説明も行う

腹腔鏡検査前の説明（看護部）

腹腔鏡検査目的で入院される方に説明を行う

開腹手術前の説明（看護部）

開腹手術目的で入院される方に説明を行う

手術前説明（院長）

手術内容と進め方について説明を行う。

手術後説明（院長）

手術時のビデオを見ながら、手術や予後の説明を行う。

ART オリエンテーション（看護部）

体外受精に入る前の患者さんに体外受精の説明を行う。

ART 結果説明(1)（ラボ専任スタッフ）

体外受精・胚移植直前に、培養した胚の説明等を行う。

ART 結果説明(2)（看護部）

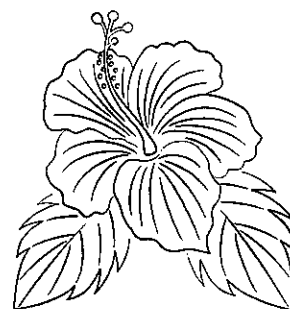
妊娠反応のチェック時に、結果説明と共に行う。

ART 結果説明(3)（ラボ専任スタッフ）

体外受精後、移植できなかった場合にその理由等を説明する。

体外受精に関する相談（ラボ専任スタッフ）

卵子・精子・胚に関する質問を随時受け付けている。



スタッフ配置

院長 宇津宮隆史

医師 根岸広明

研究室・検査室

大津英子、長木美幸、熊迫陽子、平井香里、公文麻美
城戸京子、佐藤千賀子、佐藤晶子、那須 恵

看護部

指山実千代、柴田令子、原井淳子、品矢悦子、赤嶺佳枝、越光直子、
江藤貴美、恵良郁絵、河野絢子、工藤美子、門屋英子、相良聖子、
斉高美穂、二宮 睦、関こずえ、松元恵利子、篠田多加子、足立直美
三重野直美

心理専門相談室

上野桂子（心理士）

総務部

宇津宮富美子

事務部

渡邊佳代、越名久美、足立小百合

情報処理室

工藤由香、佐藤順子、梅田麻衣、平松里美

厨房

後藤江美子、矢野千恵美、首藤清子

病院概要

名 称	医療法人セント・ルカ セント・ルカ産婦人科 セント・ルカ生殖医療研究所
開設年月日	1992年6月3日
住 所	〒870-0947 大分市津守富岡5組 TEL 097-568-6060 FAX 097-568-6299 E-mail st-luke@oct-net.ne.jp http://www.oct-net.ne.jp/~st-luke/ http://www.oct-net.ne.jp/~st-luke/imode (携帯電話用)
許可病床数	14床
職 員 数	総数 41名 常勤医 2名 総務部 1名 (兼任) 研究室 6名 事務部 3名 検査室 3名 情報処理室 4名 看護師 11名 調理士 3名 准看護師 8名 栄養士 1名 心理士 1名
診療時間	月、水、金： 9:00～12:00 17:00～19:00 (要予約) 火、木、土： 9:00～12:00 (祭日を除く)

<本年報の集計も NEW Sarah Base を用いました>

NEW

Sarah Base

Medical & Statistical Data Base Ver. 2.0
Windows98/Me/2000/XP



臨床データ管理・医学統計解析ソフト
さらに機能が充実しました。

日々の診療で得られたデータを整理し、保管し、
必要に応じて統計処理し、学会に発表する。
手間を掛けずにデータを蓄積し、手間を掛けずに
統計処理まで行う。そんな優れたものがこのひと箱に…
頼りになる偉大な味方です。

・製品構成 SarahBase診療支援/データ抽出/統計解析/項目管理作成ツール/
入力画面作成ツール/検査結果報告取込(オプション)/
レセコン照会情報取込(オプション)レセコン診療情報取込(オプション)
生体医学臨床実施成績一覧表の集計・印刷(オプション)/
備品類メンテナンスアラーム(オプション)
新機能:データ入力チェック・簡易集計等のマクロ言語ツール(仮称)
・動作環境CPU:Pentium II 350MHz以上(推奨Pentium III 450MHzクラス以上)
OS:Windows 98/Me/2000/XP メモリ:128MB以上 ハードディスク空き容量:100MB以上

(有)メディテック・ルカ 〒870-0947 大分市津守富岡5組セント・ルカ産婦人科内
TEL/FAX (097)554-8567
E-mail mt-luke@oct-net.ne.jp
<http://www.oct-net.ne.jp/~st-luke>

2004年度年報

2005年8月 発行

発行：医療法人セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

編集：宇津宮 隆史

〒870-0947 大分市津守富岡5組

Tel 097-568-6060

Fax 097-568-6299

E-mail st-luke@oct-net.ne.jp

<http://www.oct-net.ne.jp/~st-luke/>